

令和2・3・4年度 全校研究計画

令和2年5月15日
研修部 全校研究係

1 研究主題

「知的障害特別支援学校における内面の育ちを促す道徳科の授業」

2 主題設定の理由

平成30～31年度の2年計画で、研究主題「社会の一員としてもてる力を発揮できる授業の充実～主体的・対話的で深い学びの視点をふまえた授業づくり～」のもと、本研究における「深い学び」を「内面の育ち」として表現し、全校で共通理解を図りながらこれまでの授業の見直しや改善を中心に授業づくりに取り組んだ。成果としては、①「内面を育てる工夫」として選択場面の設定、他者とのかかわりによる学び、評価方法の工夫の3つに具体化するとともに、大切にしたいキーワード「わかって動く」「ひろがる」「より深く」を軸にした授業実践を行い、より主体的に、周囲の関わりの中で思考を働かせて学ぶ意欲を引き出すことができたこと、②「何を学ぶか」「何ができるようになるのか」に重点を置き、授業改善に取り組むことで身に付けさせたい力が整理され、次の学習への意欲をもち学びを深める児童生徒の姿が見られるようになったことが挙げられる。しかし課題としては、「内面の育ち」の評価方法や、各教科等との関連を図った学習内容の組み立てが挙げられた。さらに、昨年度の職員アンケートの結果では、特別支援学校における「道徳科」の授業づくりや評価方法の在り方の研修を望む声が多く、「道徳科」全面实施を受けての課題意識や児童生徒の内面に焦点を当てた学習指導への関心の高さが明らかになった。

新学習指導要領において「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として新たに教育課程上に位置付けられ、道徳教育、道徳科ともに「道徳性の育成」が目標として統一された。さらに、発達の段階に応じ、答えが一つではない課題を一人一人の児童生徒が道徳的な問題と捉え向き合う「考え、議論する道徳」へと授業の質的転換が求められており、特別支援学校においても障害の特性をふまえ、問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫によって道徳性の育成に取り組む必要がある。しかし、特別支援学校、とりわけ知的障害特別支援学校の実践事例は少ないため、今後、学校全体として実践の蓄積と共有を図りながら効果的な指導方法を明確化し、道徳教育を推進していくことが必要であると考えます。

そこで、1年目は「道徳科」への理解を深めながら全職員で基本的な考え方を学ぶこととした。道徳教育の要である「道徳科」の授業に焦点をあて、普通小学校、中学校の実践等から授業づくりの工夫について学び、実践での活用を目指した検討を行う。2年次、3年次では、授業改善を行いながら実践を積み重ね、効果的な指導方法や評価方法を探るとともに、構築を図っていきたいと考える。また、教科等横断的な視点から道徳性の育成についても検討し、知的障害特別支援学校における道徳教育の在り方を明らかにしていきたい。

以上のことから、2年間の研究で取り組んだ主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえ、内面を育てる工夫をした授業づくりの成果を生かし、「道徳科」の在り方を探ることで、児童生徒の主体的に道徳性を養う力を育み、内面の育ちを促すことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。周囲の中でよりよく生きようとするための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考え、自己の行動や生き方についての考えを深める授業を展開していくことが必要である。本研究を通して、自分なりに判断し、周囲との関わりの中でよりよく生きようとする児童生徒の育成を目指すことで、自立と社会参加に向けた生きる力を育むことができるのではないかと考える。そして、児童生徒個々の特性に応じた指導の在り方を検討し、授業改善に努めながら教員一人一人の指導力の向上を図るとともに、道徳教育の充実を目指していきたい。

3 研究の目的

各教科等と道徳教育を横断的に結びつけるとともに、道徳科における内面の育ちを促すための指導の在り方を明らかにする。

4 研究仮説

知的障害のある児童生徒の道徳教育における指導内容の重点を明らかにし、各教科等と横断的に結びつけた学習活動に位置付け、計画的に展開するとともに、道徳科におけるPDCAを意識した授業改善を図ることで、児童生徒の主体的に道徳性を養う力を育み、内面の育ちを促すことができるのではないかと考える。

5 研究内容

- (1) 本校の道徳教育の方針（全体計画、指導の重点、各教科等との関連や指導内容の位置付け、指導計画と内容の取扱い等）の共通理解を図る。
- (2) 知的障害のある児童生徒に対する具体的な指導内容や方法について検討を行う。
- (3) 児童生徒の変容（内面の育ち）の捉え方など、評価の在り方について検討する。
- (4) 指導と評価の一体化を目指し、児童生徒の内面の育ちを様々な方法で捉え、その指導を評価し、指導計画や指導方法の改善に生かす。

6 研究の方針

- (1) 研究会や研修会を通して、「道徳科」に関する基本的な考え方や「知的障害教育特別支援学校における道徳科の授業づくり」について学ぶ。
- (2) 道徳科推進委員会と連携して研究を進める。
- (3) 研究を進めるに当たっては、全校共通の視点で全員が自分の担当する授業改善に取り組めるように、シーートの記入や話し合いの方法等を工夫する。
- (4) 原則として研究日を月1回設定する。その他必要に応じて各学部や研究グループで設定する。
- (5) 全校研究会、全校授業研究会、全校研究だよりを通して職員間の共通理解を図る。

7 研究計画

(1) 令和2年度<1年次>

月	内 容
5	15日（金） ○全校研究会 【1年次研究計画提案、研究グループ発足 その他】
6	12日（金） ○第1回校内研修会 題「道徳科のポイントと授業づくり」 講師：毛内嘉威（もうない よしたけ）氏 秋田公立美術大学 副学長
6 12	○道徳科の授業の整理及び授業実践 （7月）演習「第1回研修会の振り返り」 （8月）実践事例を基にしたグループワーク① （10月）実践事例を基にしたグループワーク② （11月）道徳科の授業の検討 （12月）1年次のまとめ
1	8日（金） ○第2回校内研修会 題「道徳科におけるPDCAを意識した授業改善」 講師・助言者：毛内嘉威（もうない よしたけ）氏 秋田公立美術大学 副学長
2	5日（金） ○全校研究会 【1年次の成果と課題（各学部、全校）、次年度へ向けての課題整理】

(2) 令和3年度<2年次>

月	内 容
5	15日（金） ○全校研究会 【2年次研究計画提案、研究グループ発足 その他】
6	中旬 ○第1回校内研修会 題「道徳科におけるPDCAを意識した授業改善」 講師・助言者：毛内嘉威（もうない よしたけ）氏 秋田公立美術大学 副学長

6 8	○各研究グループによる授業づくり、各教科等と横断的に結びつけた学習活動の整理 ・研究計画書の作成 ・児童生徒の実態把握 ・指導内容、方法の検討 ・評価方法の検討
9 12	○各研究グループによるPDCAを意識した授業実践 ・授業研究会①（部） ・授業研究会②（部） ・授業研究会③（部）
12	23日（水） ○2年次の研究報告提出
1	未定 題「知的障害教育支援学校における道徳科の授業と評価の在り方」 講師：吉本 恒幸（よしもと つねゆき）氏 聖徳大学大学院 教授
1	○教師個々の学びの振り返り・アンケート提出
2	5日（金） ○全校研究会【2年次の成果と課題（各学部、全校）、次年度へ向けての課題整理】

(3) 令和4年度<3年次>

月	内 容
5	中旬 ○全校研究会 【3年次研究計画提案、その他】
6	中旬 ○第1回校内研修会 題「道徳科の授業と評価の在り方」 講師・助言者：毛内嘉威（もうない よしたけ）氏 秋田公立美術大学 副学長
6 8	○各研究グループによる授業づくり、各教科等と横断的に結びつけた学習活動の整理 ・研究計画書の作成 ・児童生徒の実態把握 ・指導内容、方法の検討 ・評価方法の検討
9 12	○各研究グループによるPDCAを意識した授業実践 ・授業研究会①（部） ・授業研究会②（部） ・授業研究会③（部）
12	下旬 ○3年次の研究報告提出
1	○教師個々の学びの振り返り・アンケート提出
2	上旬 ○全校研究会【3年次の成果と課題（各学部、全校）、3年間の研究のまとめ】
3	○次年度からの研究方針の概要と計画立案

8 その他

- ・授業者が助言者を指名し、一対一の対話研研修を行う「希望者研修授業」を行う（6月～12月）。※詳細は別紙参照。